

技術経営 (MOT) 研究の先導役を担う

— 日本開発工学会研究発表大会 (第1回) 開催報告 —

小平 和一郎*1

1. はじめに

一般社団法人日本開発工学会 (会長大江修造) は、2018年6月24日 (日) の午後、芝浦工業大学芝浦キャンパス (東京都港区) で、第1回研究発表大会 (実行委員長小平和一郎) を開催しました。統一テーマは『知の衝突と融合の“場”』としました [1]。

日本開発工学会は「ビジネス創生に関するすべての事柄を研究する」「市場と組織との効率的な関係を探求する」「技術と社会の調和」「理論と実務との橋渡し」などを社会的使命に掲げています。つまり、ビジネスに関わる実学研究に主眼を置いています。当学会が取り組んだ研究発表大会の概要を報告します。

2. 研究発表大会企画の背景

ここで、第1回の研究発表大会を企画し、実施することになった背景について報告します。

どの学会でも同じような事情があるのではないかと思います。急速な会員の減少があります。学会は、世代交代時期を迎えています。学会を支えてきた団塊の世代は、70歳代となり高齢者となりました。主力となって学会を支えてきた会員が、ここにきて毎年1割近く退会しています。この対策は、簡単ではありません。ビジネスに関わる仕事や研究に直接役立つ、魅力的な学会活動にしなければなりません。その上で、若手研究者の入会をさらに促進するしかないと考えました。

学会活動の質をさらに向上させることが、会員減少に歯止めをかける即効性のある手段と認識して、若手研究者が発表できる場、研究発表大会の企画に取り組みました。会員の誰でもが、発表できる研究発表会の開催をすることは、多くの学会でもやっていますが、当学会では長年、取り組んでいませんでした。以上が、研究発表大会開催の背景です。

*1 一般社団法人日本開発工学会 理事・運営委員長、第1回研究発表大会実行委員長、横幹連合理事

Received: 28 January 2019.

3. 研究会のセッション構成と優秀発表者の選考

当学会の研究会活動として取り組んできた、「ビジネスイノベーション」「エンジニアリング・ブランド」「サービスイノベーション」という3テーマを取り上げ、3つのセッションを組み立てました。

しかし、そのテーマだけでは、従来と研究テーマが異なる領域の応募を受け付けることができないので、それぞれのセッションに「科学技術」「MOT (技術経営)」「ホスピタリティ」という横軸を刺す3要素を付加しました。(S1) ビジネスイノベーションと科学技術、(S2) エンジニアリング・ブランドとMOT、(S3) ホスピタリティとサービスイノベーションという3セッションとすることで、多様なテーマに対応することが可能な研究発表会となるよう工夫をしました (Fig.1 参照)。



Fig. 1: 研究発表大会の様子 (S1: セッション1)

(1) S1 「ビジネスイノベーションと科学技術」

座長：永井明彦 (筑波大学国際産学連携本部)

副座長：山中隆敏 (メディカルパーフェクト代表取締役)

発表1 『組織構造変化に対するビジネスイノベーション』
 越智徹 (NTT ファシリテーターズ中央)

○発表2 『建設業における少子高齢化に対するICT技術
 ロードマッピング作成の試み』 西野高明 (竹中工務店)

発表3 『保守市場におけるイノベーション装置の市場創
 生モデル』 渋谷加津美 (アーネスト育成財団研究員)

○発表4 『ビッグデータ応用による組織イノベーション
 技法の一手法』 原岡和生 (俯瞰工学研究所研究員)

発表5『なぜ、今、アフリカなのか』浅野昌宏（アフリカ協会副理事長）

○発表6『高機能性野菜の安全生産・安定供給を目指す - 循環型・先端科学農業（アグリエンス）の取り組み - 』山中隆敏（ゆうき屋 International 株式会社専務取締役）
（注）○を付けた発表2, 4, 6は学会誌特集 [1] に掲載。

(2) S2 「エンジニアリング・ブランドと MOT」

座長：平田貞代（芝浦工業大学大学院准教授）

副座長：鳥濱博（職業能力開発総合大学校研究員）

○発表1：『製造ラインの改善成果を可視化する統計モデルの研究—作業時間の変動の様子を効果別に比較する分析手法—』泉陽介（産業リノベーション研究所）

発表2：『感性工学にもとづく香りの嗜好についての研究—エッセンシャルオイルに対する好みとその理由の男女差に関する実験—』青山早苗（芝浦工業大学）

○発表3：『下水道事業の処理場改築計画における判断手法の差異—自動処理と人の判断の差異—』辻諭（日本水工設計）

発表4：『新しい大工の形であるサラリーマン大工への挑戦—組織化とブランド化の構築—』古谷則剛（アーネストウイング） [2]

発表5：『顧客のチャレンジと一緒に進める「要素技術の見える化」—競争優位を実現するエンジニアリング・ブランド—』瀧川淳（エヴィクサー代表取締役）

発表6：『大学で講義する「西河技術経営学入門」の概要』杉本晴重（アーネスト育成財団理事）

（注）○を付けた発表1と3は学会誌特集 [1] に掲載。

(3) S3 「ホスピタリティとサービスイノベーション」

座長：加地照子（日本ホスピタリティ・マネジメント学会副会長）

副座長：中村孝太郎（北陸先端科学技術大学院大学非常勤講師）

発表1：『競争市場の中で選ばれ勝ち抜く企業のホスピタリティ - ホスピタリティの心で顧客に接し、サービス事業の創生に取り組む - 』牛坂光（イーレックス） [3]

発表2：『自社を知り、自社を磨き、自社を愛す—働く人が自分の仕事を誇れる会社をつくる—』小貫智太郎（群馬セラミックス代表取締役） [4]

○発表3：『社長に求められるセンスウエア考』辻恭子（東京立正短期大学兼任講師）

発表4：『わが国家電メーカ—のサービス事業化戦略の研究—製品販売価格と営業利益率の相関からの試案—』郭天宝（横浜市立大学大学院）

○発表5：『ロボットホスピタリティの特性探索—変なホテル、ハウステンボスの事例—』増田央（京都大学経営管理大学院）

（注）○を付けた発表3と5は学会誌特集 [1] に掲載。

(4) 優秀発表者の審査と表彰

7名の役員と座長と副座長が一次審査を担当しました。一次審査で学会誌「開発工学」に掲載 [1] の論文を、学会誌の査読者7名が第2次審査を行い「優秀賞は該当なし。優良賞は、増田央、原岡和生、山中隆敏の3名。奨励賞は、辻恭子、辻諭、泉陽介の3名」を決定し、11月開催のシンポジウムの中で表彰しました。

4. おわりに

初回にも関わらず研究報告会の予定枠に近い17本の研究発表の申込がありました。当学会の社会的な使命にある「ビジネス創造に関するすべての事柄を研究する」に関連するビジネスの実践事例に基づく実学研究に関する報告がされました。3つのセッションでは、いずれも時間が足りないほどの活発な意見交換が参加者との間で行われました。

座長の永井明彦からは「多様な産業からイノベーションを目指した活動に関する報告がありました。いずれも、非常に興味深い活動報告であったと思います。会場から多くの意見や質問があり、活発に議論が取り交わされました」とのコメントがありました。

座長の平田貞代からは「製造、建築、教育サービスなど、全て実践に基づくテーマでした。自ら問題点を抽出し、解決方法を導き出され、地に足が付いた内容であったため聴き応えがありました。発表の度に活発な討議があり質疑応答の時間が足りないほどでした。発表者と聴講者の抱える問題、方法論、結論が混ざり合い、気づきや相乗効果により、新たな研究チームへと発展するかもしれません。質疑応答から得た刺激を基に研究を前進させることを期待します」とコメントがありました。

座長の加地照子からは「発表を聞き『変化させる』『進化させる』の情熱と意気込みを強く感じました。発表者は実務に長け、次代を担うリーダーとして組織、企業、日本を良くし、世界に羽ばたきたいという志をお持ちの方ばかりでした。開発工学会には多様な業界での卓越した経験やグローバルな見識をもつ方々で満ち溢れています。その方々の力を借りて、発表者たちが課題を解決し他者とともに創造し成長していけるよう、ホスピタリティ・マネジメント論も一助として、全面的に応援して参りたいと思いました」とのコメントがありました。

当学会は、1973年に「開発工学研究会」として発足しています。文系、理系の研究者がほぼ同数の会員で構成され、今日までMOT研究の先導役を担って、ビジネスの創造に関するすべての事柄について研究してきました。今、まさに変革の時代です。当学会には、学問の

新しい領域をつくるべく、新たなミッションが課せられています。今回報告をみると、全てが実務に基づくビジネスの現場で起きている事柄をテーマした報告でした。日本開発工学会は、これからも実学研究をとおして「技術と社会の調和」や「理論と実務との橋渡し」に取り組めます。

参考文献

- [1] 日本開発工学会：特集 技術経営（MOT）研究の先導役を担う学会の役割，開発工学，2018.10.16，Vol.38 No.1
- [2] 古谷 則剛：新しい大工の形であるサラリーマン大工への挑戦，開発工学，2018.10.16，Vol.38 No.1
- [3] 牛坂 光：競争市場の中で選ばれ勝ち抜く企業のホスピタリティ，開発工学 2018.10.16，Vol.38 No.1
- [4] 小貫 智太郎：自社を知り，自社を磨き，自社を愛す，開発工学，2018.10.16，Vol.38 No.1